

ABCDEF分析シートについて

このシートは、問題提起行動毎に記入する。問題提起行動への支援の三本柱、すなわち先行支援、分化強化、消去を計画するときには、ABCの三項だけでなく、DEFも考える必要がある。Dはdeficitである。たいてい欠陥と訳されるが、弱点、不得意なこと、短所などと呼ばれる特性であり、筆者はメリ(減り)と呼んでいる。このDをアセスメントすることが、Aすなわち先行事象(antecedent)の理解に導く。そして、Cすなわち結果事象(consequence)を分析することで、Bすなわち行動のFすなわち機能(function)を明確にすることができる。

そして、支援を考えることになる。Eはexcessあるいはextraである。強み、得意なこと、長所などと呼ばれる特性であり、筆者はハリ(張り)と呼んでいる。このEをアセスメントすることが、Aすなわち先行事象に対する対応策、すなわち先行支援につながる。つまりハリを活かす支援ということになる。具体的には、視覚的構造化により環境をわかりやすくする(弁別刺激を察知しやすくすること)や、機能的コミュニケーション・スキルの習得が考えられる。例えば、絵カード交換式コミュニケーション・システム®(PECS®)の習得である。

次にBに対しては、機能的に等価な代替行動(FEAB)を決定し、そのCすなわち結果事象が、問題提起行動による結果に等しいかそれ以上のものになるようにする(代替行動分化強化DRA)。あるいは、問題提起行動以外の行動を強化する(他行動分化強化DRO)。それでも出て来る問題提起行動は強化しないようにする(消去)。

以上を1枚のシートにしたものが、ABCDEF分析シート™である。